

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 おおさか識字・日本語センター

1. 事業名称

大阪府の識字・日本語教室活動支援体制づくり事業

2. 事業の目的

大阪府内で活動する約205の教室の活動を日常的に支援していくための体制づくりを進める。

* 大阪府においてはさまざまな事情や差別により学習の機会を奪われた人々を対象にする識字学級が開催されていたが、同じ教室に外国人学習者も学ぶ「識字・日本語教室」と称する教室も数多く、識字教室と日本語教室を明確に分けて取り扱うことができないので、事業の対象を「識字・日本語教室」として取り扱う。

3. 事業内容の概要

体制づくりの核となる人材が『おおさか識字・日本語センター』に集まり、各地の課題を府全体の課題として捉え、包括的に解決していく方策を協議していく仕組みづくりの端緒として、「識字・日本語学習コーディネーター連絡会議」、「識字・日本語教室等運営者連絡会議」を定期的に開催する。教室活動を支える人材育成としての「識字・日本語学習支援セミナー」や各地各教室の取組みの成果や課題を共有する「識字・日本語学習シンポジウム」を大阪府が主宰する各市町村担当者連絡会議における取組みと連動させ、官民が協働して取り組む体制づくりを進める。また学習者同士が活動への意欲を高め合う交流会「よみかきこうりゅうかい」を府内の夜間中学校などとも連携して開催する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

運営委員は、年に3回開催する運営委員会において、本事業全体の進捗状況を確認し、検討する。

運営委員は、受託団体である「おおさか識字・日本語センター」と大阪における識字・日本語学習を牽引していきた団体、再委託先の教室、連携する大阪府教育委員会からそれぞれ選出された者で構成。

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 5月12日 10:00～ 12:00	2時間	HRCビル会議室	森 実 上杉 孝實 田村 幸子 石橋 由紀子 安野 勝美 木山 正 田中 隆博 (7名)	(1)事業内容の確認・検討 (2)事業実施スケジュールについて (3)情報交換	(1)大阪府内の現状を共有し、本事業の目的や意義について話し合った。 (2)事業実施内容にそってスケジュールを協議。 シンポジウム(取組3)・セミナー(取組4)・交流会(取組5)開催会場について協議し、コーディネーター連絡会議メンバーで決定した上で会場予約をすすめることとする。 (3)府内の識字・日本語に関する取組について情報交換した。
2	平成26年 9月25日 10:00～ 12:00	2時間	HRCビル会議室	森 実 上杉 孝實 田村 幸子 石橋 由紀子 安野 勝美 木山 正 田中 隆博 (7名)	(1)事業の進捗状況 (2)終了した事業についてのふりかえり (3)今後の事業の進め方	(1)事業の進捗状況について確認し、コーディネーター連絡会議で出された意見を共有。今後のスケジュールを確認。 (2)取組6「学習支援体験研修」のまとめ。 (3)シンポジウム(取組3)・セミナー(取組4)・交流会(取組5)の内容について協議
3	平成27年 3月20日 10:00～ 12:00	2時間	HRCビル会議室	森 実 上杉 孝實 田村 幸子 石橋 由紀子 安野 勝美 木山 正 田中 隆博 (7名)	(1)事業全体の総括 (2)今後の取組みについて (3)情報交換	(1)事業の各取組を報告。成果と課題の整理。 (2)今年度の事業の成果をどのように発信していくか検討した。継続した取組にしていきたいための工夫について協議。シンポジウム(取組3)については、情報発信や行政に対して提案するなど、今後の体制づくりにつなげることとする。 (3)府内の識字・日本語に関する取組について情報交換した。

5. 取組についての報告

○取組1-1: 識字・日本語学習コーディネーター連絡会議の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

定期的に開催し、大阪府における識字・日本語学習活動支援の仕組みづくり及び体制整備を進める。

(2) 取組内容

長年にわたり識字・日本語学習活動にかかわってこれらの方を構成員として、大阪府における識字・日本語学習活動支援の仕組みをつくり、体制づくりを推進することを目標として、様々な活動を計画、実行していくための会議を開催する。

(3) 対象者

府内の識字日本語学習にかかわるキーパーソン

(4) 参加者の総数 7人

出身・国籍別内訳

中国	0人	インドネシア	0人	マレーシア 1人
韓国	0人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	0人	フィリピン	人	
ネパール	0人	日本	6人	

(5) 開催時間数(回数) 24時間 (全12回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 4月15日 15:20～ 17:20	2時間	HRCビル貸会議室	7人	日本人5人 マレーシア人1人	年間の取り組み 目標とスケジュール	・会議の目的および方向性の確認。 ・今後のスケジュールを協議。 ・取組6「学習支援体験研修」実施について協議。	田村幸子、久保房子、田中洋子、安野勝美、塩山詠子、アブドゥルラーマン	田中隆博
2	平成26年 5月15日 15:00～ 17:00	2時間	HRCビル貸会議室	7人	日本人5人 マレーシア人1人	大阪府内の教室の 情報共有とキーパーソン	・大阪府内205教室の情報共有。 ・取組2「教室運営者連絡会議」開催に向けて、協議。大阪府を7地区に分けてそれぞれの地区から会議出席者を選。	田村幸子、久保房子、田中洋子、安野勝美、塩山詠子、アブドゥルラーマン	田中隆博
3	平成26年 6月3日 15:30～ 17:30	2時間	HRCビル貸会議室	7人	日本人5人 マレーシア人1人	シンポジウムと セミナーの企画・実施 計画案	・取組3「シンポジウム」や取組4「セミナー」の内容について協議、検討。 ・広報方法やチラシの案について協議。 ・学習者が日本語学習や生活情報入手のツールとして、スマートフォンやタブレットを活用している状況についての意見交換。	田村幸子、久保房子、田中洋子、安野勝美、塩山詠子、アブドゥルラーマン	田中隆博
4	平成26年 7月9日 15:00～ 17:00	2時間	HRCビル貸会議室	7人	日本人5人 マレーシア人1人	府内の各地域の課題 解決に向けての連携	・取組5「交流会」について協議。 ・活発に活動している教室(北芝)と今後活発に活動したい教室(西郡)との交流を計画。 ・子育て中の外国人保護者に対する支援の現状と課題に関する協議。	田村幸子、久保房子、田中洋子、安野勝美、塩山詠子、アブドゥルラーマン	田中隆博
5	平成26年 8月4日 15:00～ 17:00	2時間	HRCビル貸会議室	7人	日本人5人 マレーシア人1人	府内の各地域の課題 解決のための具体的な 進め方	・日本で子育てをしている外国人保護者への日本語学習支援について体制や環境を整えた教室の取組について案を出し合う。 ・セミナーのテーマや内容について協議し、講師を決定。	田村幸子、久保房子、田中洋子、安野勝美、塩山詠子、アブドゥルラーマン	田中隆博
6	平成26年 9月4日 15:00～ 17:00	2時間	HRCビル貸会議室	7人	日本人5人 マレーシア人1人	支援者養成の在り方 と行政と民間の連携・ 協働について	・府内で実施されている支援者養成のためのセミナーや研修、シンポジウムを整理し連携する方法について協議。 ・シンポジウムでは行政担当者、セミナーでは支援者に、新しい視点を提案する。	田村幸子、久保房子、田中洋子、安野勝美、塩山詠子、アブドゥルラーマン	田中隆博

7	平成26年 10月7日 15:30～ 17:30	2時 間	HRCビル貸会 議室	7人	日本人5人 マレーシア人 1人	セミナーの 総括、支援 者養成の 在り方、シ ンポジウム と交流会 について	・セミナーの振り返り ・支援者養成の講座や研修に求めら れているものは何かを検討 ・取組3シンポジウム、取組5よみか きこうりゅうかいについて協議	田村幸子、久保 房子、田中洋 子、安野勝美、 塩山詠子、アブ ドゥルラーマン	田中隆博
8	平成26年 11月12日 15:00～ 17:00	2時 間	HRCビル貸会 議室	7人	日本人5人 マレーシア人 1人	行政と民間 との連携と 協働	シンポジウムにおいて行政担当者に 民間との連携・協働についての具体例 を示し、何が出来るかを共に考える機 会にできるよう、当日の進め方や分担 を決める。	田村幸子、久保 房子、田中洋 子、安野勝美、 塩山詠子、アブ ドゥルラーマン	田中隆博
9	平成26年 12月11日 15:30～ 17:30	2時 間	HRCビル貸会 議室	7人	日本人5人 マレーシア人 1人	シンポ ジウムの 総括	シンポジウムで出された意見をまと め、発信していく方法と次にどうつなげ ていくか協議 ・外国人保護者への日本語学習支援 の取組みについて具体化する	田村幸子、久保 房子、田中洋 子、安野勝美、 塩山詠子、アブ ドゥルラーマン	田中隆博
10	平成27年 1月8日 15:30～ 17:30	2時 間	HRCビル貸会 議室	7人	日本人5人 マレーシア人 1人	市町村を超 えた取り組 みについて	・市町村を超えて、課題解決のために 情報を交換し、具体的な解決方法を明 確にする。今年度中に外国人保護者 支援(保育)体制が整う豊中市の教室 を大阪市内の教室が訪問する計画を たて実施する。 事前に当事者の声を聞く機会を設け る。	田村幸子、久保 房子、田中洋 子、安野勝美、 塩山詠子、アブ ドゥルラーマン	田中隆博
11	平成27年 2月7日 10:00～ 12:00	2時 間	HRCビル貸会 議室	7人	日本人5人 マレーシア人 1人	子育て世 代の学習 者、若い世 代の支援 者の教室 参加を促進 する工夫	・国際結婚の家族の状況や課題につ いて協議(子どもの問題等) ・子どもが保育所等に入る前の母親 (学習者、支援者とも)が教室に来られ る環境を整備することの重要性につ いて意見を出し合う。	田村幸子、久保 房子、田中洋 子、安野勝美、 塩山詠子、アブ ドゥルラーマン	田中隆博
12	平成27年 3月14日 10:00～ 12:00	2時 間	HRCビル貸会 議室	7人	日本人5人 マレーシア人 1人	大阪府の 識字・日本 語活動を推 進する体制 づくりのた めの課題と 今後の取り 組み	・教室の役割、求められる支援者の資 質について意見交換 ・大阪府内各地の取り組みを連携させ る仕組みづくりについて ・今年度の取り組みをどう次年度につ なげるか話し合う	田村幸子、久保 房子、田中洋 子、安野勝美、 塩山詠子、アブ ドゥルラーマン	田中隆博

(7) 参加者の募集方法

公募はせず、大阪府教育委員会と協力し、府内各地の識字・日本語学習で活躍されている方、定住外国人で
様々な学習者との繋がりを持って教室の活動をサポートしている方に直接依頼して会議に出席していただいた。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

【第1回記録より】

・大阪府内205教室は市町村が所管または把握している教室が殆どだが、そのうち教育委員会の所管と
首長部局の所管に分かれる。教育委員会と国際交流課の担当の連携が不十分なところが多い。また教
育委員会の中でも学校教育課と地域教育課の連携も課題である。市町村担当者の中にも教室に足を運
ぶ機会がなく状況が把握できていない実情があり、まず、教室の状況を知ってもらい、学習支援を体験す
ることによって各担当教室へ行くことを促したい。日程は4月22日。約50名の担当者に対応できる教室とし
て、「にほんご なんば」で実施する。学習者等に主旨等説明し、了解をもらい学習時間内で行う。

・教室がそれぞれの教室の活動に追われ、他の教室との交流や連携が充分されていない。教室の発展・
充実、課題解決に向けて各教室が交流や連携の必要性をどう感じているか知らなければならない。その
上で、機会や仕組みを作っていく。学習者は複数の教室に参加しているので、教室間が連携する必要は
ある。顔の見える関係を築くことが大事。

・セミナー、シンポジウム、交流会は会場の決定・予約、準備を早めに行わなければならないので年間
スケジュールにそって取組を進めたい。

【第4回記録より】

・教室運営者連絡会議で出された意見に対して、具体的な取り組みができないか。特に、子育て世代の
外国人保護者への日本語学習支援の取組みについては今年度課題整理と解決に向けて動き出せるよう
考えたい。当事者に直接話を聞く場を設け、連携できる機関・団体と話し合う場をつくり、先進的な取り組
みをしているところを見学する。

(当事者の集まり、社会福祉協議会、国際交流センターを訪問を実施した)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

他の取組みの内容も含めて、今年度全体の取り組みをコーディネーター会議で調整をはかり、それぞれの取り組みの目標を明確にし、具体化できた。各地の日本語学習の関係者と協力することで新たな視点、発想で事業を行うことができた。特に、外国人保護者の支援については、コーディネーター会議のメンバーで、当事者・浪速区社会福祉協議会・とよなか国際交流協会と協力して課題整理した上で、課題解決に向けて道筋ができた。これらの成果を活かし、今後も継続して連携体制を構築し、学習者のニーズをとらえた支援の在り方を検討していきたい。

(10) 改善点について

なかなかスケジュールが合わず、会議の開催が難しかった。今後はメンバーを更に充実させて協議を重ねていくことが望ましい。

○取組1-2: 日本語教育の実施

(1) 体制整備に向けた取組の目標

大阪府における識字・日本語学習活動支援の仕組みづくり及び体制整備を進める。

(2) 取組内容

日本語教室(にほんごなんば・よる)を開設し、本事業における活動の拠点とする。

(3) 対象者

府内在住の日本語学習者

(4) 参加者の総数 62 人

出身・国籍別内訳

中国	14人	インドネシア	1人	
韓国	11人	タイ	1人	台湾 7人 アメリカ 2人 セネガル 2人
ブラジル	0人	ペルー	0人	トルコ 1人 エジプト 1人
ベトナム	4人	フィリピン	1	マレーシア 1人
ネパール	1人	日本	15人	

(5) 開催時間数(回数) 61.5 時間 (全 41 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
	4月8日 19:00~21:00	2 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17人	日本16人 ベトナム人1人	教室開催 準備 運営委員 会	教室立ち上げに賛同する人で開催準備を行う。 運営委員会(教室の理念、運営体制、広報等について話し合う。各種用紙、教材の準備)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
1	5月13日 19:00~20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	18人	日本11人 ベトナム人1人 エジプト人1人 中国人5人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
2	5月20日 19:00~20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	16人	日本10人 ベトナム人1人 中国人5人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		

3	5月27日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17人	日本10人 ベトナム人1人 エジプト人1人 中国人5人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	5月27日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム人1人 エジプト人1人 中国人1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営の課題 について協議 (広報や学習者・支援者募集につい て)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
4	6月3日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	16人	日本10人 ベトナム人1人 中国人5人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
5	6月10日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17人	日本10人 ベトナム人2人 中国人5人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
6	6月17日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	18人	日本10人 ベトナム人1人 中国人5人 台湾人1人 アメリカ人1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
7	6月24日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	18人	日本10人 ベトナム人2人 中国人4人 台湾人1人 フィリピン1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	6月24日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム人1人 エジプト人1人 中国人1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営につい て協議 (教室の広報チラシと配布方法) 全体学習について(七夕の学習)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
8	7月1日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	20人	日本11人 ベトナム人1人 エジプト人1人 中国人5人 アメリカ人1人 韓国1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習 全体で七夕学習(短冊に願いを書く、 笹飾り作成)		
9	7月8日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	22人	日本11人 ベトナム人1人 中国人7人 台湾2人 フィリピン1人 韓国1人 ネパール1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
10	7月15日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	23人	日本12人 ベトナム人1人 中国人6人 台湾3人 フィリピン1人 韓国3人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
11	7月22日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	23人	日本12人 ベトナム人1人 中国人4人 台湾3人 フィリピン1人 韓国2人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
12	7月29日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	19人	日本11人 ベトナム人1人 エジプト人1人 中国人3人 台湾2人 ネパール1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合 わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	7月29日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム人1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営につい て協議 (教室外の活動について、学習見学者 対応について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	

13	8月19日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	19人	日本10人 中国人3人 フィリピン1人 韓国3人 ネパール1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
14	8月26日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	21人	日本11人 ベトナム1人 中国人2人 台湾3人 韓国2人 ネパール1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	8月26日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (教室のPRについて、マッチングについて)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
15	9月2日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	19人	日本11人 中国人3人 台湾3人 韓国1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
16	9月9日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	15人	日本9人 ベトナム2人 韓国2人 中国2人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
17	9月16日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	15人	日本9人 韓国2人 中国3人 台湾1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
18	9月23日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	14人	日本9人 中国3人 台湾1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
19	9月30日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	14人	日本9人 ベトナム1人 韓国1人 中国2人 台湾1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	9月30日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議(よみかきこうりゆうかい参加について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
20	10月7日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	20人	日本10人 ベトナム1人 韓国3人 中国2人 台湾1人 フィリピン1人 ネパール1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
21	10月14日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	24人	日本11人 ベトナム1人 韓国5人 中国4人 台湾2人 ネパール1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
22	10月21日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	20人	日本11人 ベトナム2人 韓国3人 中国3人 台湾1人 フィリピン1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		

23	10月28日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	21人	日本11人 ベトナム2人 韓国3人 中国3人 フィリピン1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	10月28日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (よみかきこうりゅうかい教室発表について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
24	11月4日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	19人	日本10人 ベトナム1人 韓国5人 中国3人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
25	11月11日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	24人	日本12人 ベトナム2人 韓国7人 中国3人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
26	11月18日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	24人	日本12人 ベトナム1人 韓国8人 中国2人 台湾1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
27	11月25日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	23人	日本12人 ベトナム1人 韓国4人 中国2人 台湾2人 ネパール1人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	11月25日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (年末行事について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
28	12月2日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17人	日本10人 韓国4人 中国2人 台湾2人 セネガル1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
29	12月9日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	24人	日本11人 韓国5人 中国3人 台湾2人 セネガル2人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
30	12月16日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	23人	日本11人 韓国4人 中国3人 台湾2人 セネガル2人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	12月16日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (1年のふりかえりと、全体学習新年行事について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
31	1月6日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17人	日本10人 韓国2人 中国2人 台湾1人 フィリピン1人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		

	1月6日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (今回の準備、2月3日全体学習節分について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
32	1月13日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	20人	日本10人 韓国4人 中国2人 台湾1人 フィリピン1人 セネガル2人	日本語学習	全体学習(書初め、カルタ、スゴロク) 情報交換・交流タイム		
33	1月20日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17人	日本10人 ベトナム1人 韓国3人 中国1人 台湾1人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
34	1月27日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	18人	日本10人 韓国6人 セネガル2人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
35	2月3日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	17名	日本11人 韓国3人 中国1人 台湾1人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	2月3日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (全体学習雑祭りについて)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
36	2月10日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	21人	日本11人 ベトナム1人 韓国7人 セネガル2人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
37	2月17日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	20人	日本12人 ベトナム2人 中国1人 韓国2人 セネガル2人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
38	2月24日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	29人	日本15人 ベトナム3人 中国4人 韓国6人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
39	3月3日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	27人	日本15人 ベトナム2人 中国1人 台湾1人 韓国7人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
	3月3日 19:30～20:30	1 時間	大阪市立難波市民 学習センター	6名	日本3人 ベトナム1人 韓国1人 中国1人	運営委員会	学習者の状況共有、教室運営について協議 (1年間のふりかえり、教室外学習お花見について)	久保 房子 岸 治代 木山 正	
40	3月10日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	19人	日本12人 ベトナム2人 台湾1人 韓国3人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		
41	3月17日 19:00～20:30	1.5 時間	大阪市立難波市民 学習センター	22人	日本12人 ベトナム2人 台湾1人 韓国4人 セネガル2人 トルコ1人	日本語学習	学習者の日本語レベルと、要望に合わせて学習。 情報交換・交流タイム		

(7) 参加者の募集方法

おおさか識字・日本語センターのホームページ、募集チラシ等で学習者募集、学習者・ボランティアのロコミ

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

毎週火曜日の夜7時～8時半、大阪市立難波市民学習センターで開催。日本語学習者と支援者が一緒に考えて教室をつくり、さらに充実・発展させていくために主体的に取組めるようみんなで意見を出し合いながら活動。

学習形態はマンツーマンが殆どで、複数の学習者でグループ学習もしている。毎回、教室全体で共通のテーマで学習したり、交流したりする時間を設けている。

日本文化を学ぶ季節の行事なども取り入れて学習している。

4月に準備をすすめ、5月にスタートしたばかりなので、9月に教室を立ち上げたことをPRし、参加者を増やすことを目的としたイベントを開催。日本語学習者や教室の存在を知らない人々の参加があり、理解を広げることができ、新しく参加する人が増えた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本語教室を開設し、外国人学習者に日本語学習の場を提供することができた。従来の教室では、学習支援者主体となって運営し、学習者は準備された教室に来て支援される側になっていたため、「お互いに学び合う対等な関係」とはなっていなかった。また、支援者の間でさえ、教室の理念や課題を共有して共に課題解決に向けて取り組む体制がなく、一部の支援者が運営を担っていることが多く、1対1の学習支援に終始して、教室参加者の交流が不足していることなどが課題であった。それらの課題を解決するために、全体学習の時間を設けるなど、様々な試みをしながら進めることができた。特に、学習者が主体的に運営委員会に参加し、意見を出し合いながら、一緒に考える体制をつくることができた。毎回、教室の準備や片づけを全員で行い、全体学習をどのようなものにするか一緒に考え、学習者が全員の前で発表する機会を多くつくることが良かった。少人数で丁寧に進めており、お互いの顔がわかる関係を築き、アットホームな雰囲気での学習している。

教室開設から約半年後の11月に、よみかきこうりゅうかいに参加し、約400名の参加者の前で舞台発表をした。発表内容についてアイデアを出し合い、楽しくできたことで、教室での学習にも一体感が増し、活気が出た。

先に開設されていた朝と昼の教室と2ヶ月に1度連絡会議で連携を取るようになり、会場の社会教育施設、大阪市教育委員会の職員にも会議に出席してもらうことで、協働体制をつくることができた。

(10) 改善点について

日本語学習者のレベルや希望が違うため、グループ学習の形態をつくるのが難しい。マンツーマンに近い少人数で学習することになり、支援者(ボランティア)が不足している。特に若い世代の支援者を増やしていきたい。

学習者の入れ替わりが多いので、マッチングが難しい。

学習者のアイデアをもっと引き出して、企画・実行していけるようにしていきたい。

夜の教室なので、大人を対象として考えてきたが、現在6名の小・中学生が教室に参加している。学習者のニーズ(なぜ教室に来ているか)を的確に理解し、それに対応できること、他の教室との連携が必要なことを整理し、実行したい。

○取組2:識字・日本語教室等運営者連絡会議の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

府内各地において運営基盤が脆弱な教室が連携し、市町村行政とも協働して取り組んでいける体制づくりを進めていく。

(2) 取組内容

大阪府内各地域の偏りがないように配慮したうえで依頼した識字・日本語教室の運営者が集い、地域における学習活動の状況と課題を共有し、各地域における協働体制の構築を進めていけるよう協議する。

(3) 対象者

府内の識字・日本語学習にかかわるキーパーソン

(4) 参加者の総数 14人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	マレーシア人 1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	13人	

(5) 開催時間数(回数) 8時間 (全4回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	6月11日 15:00～ 17:00	2 時間	中之島図書館 別館2階	12人	日本人 11人 マレーシア人 1人	会議の趣 旨 現状報告 取組の協 議	①会議の趣旨等について ②自己紹介および活動状況 ③市町村域を超えた取組みに ついて提案と協議 ③情報交換、他	安野勝美・久保房子 田中洋子・塩山詠子 アブドゥルラーマン・田村幸子 島貫清司・佐谷洋子 平野和美・中竹忠浩 岡田洋美・田中隆博
2	7月24日 15:00～ 17:00	2 時間	中之島図書館 別館2階	13人	日本人 12人 マレーシア人 1人	同右	①府内の教室見学会について報 告 ②市町村の枠を超えた連携体制 について 「日本で子育てをしている外国人 保護者への日本語学習支援」 ③識字・日本語学習支援セミナー のシンポジウムについて協議 ④情報交換	安野勝美・久保房子 田中洋子・塩山詠子 アブドゥルラーマン・田村幸子 島貫清司・平野和美 中竹忠浩・岡田洋美 郷田登樹子・藤澤ひろみ 田中隆博
3	11月6日 15:00～ 17:00	2 時間	中之島図書館 別館2階	10人	日本人 9人 マレーシア人 1人	同右	①識字・日本語学習支援セミナー のふりかえり ②市町村域を超えた連携と取組 みについて協議 ③情報交換、他	安野勝美・久保房子 田中洋子・塩山詠子 アブドゥルラーマン・田村幸子 島貫清司・岡田洋美 郷田登樹子・田中隆博
4	1月23日 14:30～ 16:30	2 時間	HRCビル 会議室	12人	日本人 11人 マレーシア人 1人	同右	①年間のふりかえり ②次年度の取り組み 市町村を超えた教室間の 情報交換の仕組み作り 日本で子育てをしている 外国人保護者への日本語 学習支援体制・環境整備	安野勝美・久保房子 田中洋子・塩山詠子 アブドゥルラーマン・田村幸子 島貫清司・佐谷洋子 中竹忠浩・岡田洋美 郷田登樹子・田中隆博

(7) 参加者の募集方法

公募はせず、大阪府教育委員会と協力し、府内各地の識字・日本語学習で活躍されている方、運営をになっている方に直接依頼して会議に出席していただいた。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

【第2回記録より】

- ①・各市町村担当者が、ブロック単位で教室を訪問し、それぞれの教室の様子を直接見る機会を持ったことは今年度のあらたな取り組みとして良かった。訪問した担当者の感想を教室運営者が知ることができて良かった。
- ②・市町村単位でのみ取り組んでいても学習者は市町村を超えて教室に参加しているし、隣接する市町村はも広範囲の教室同士が情報を共有することが必要である。
例えば支援者が不足している教室と学習者が減少している教室が補い合うことも可能にできるような仕組みをつくれないか。情報を集約・発信できるセンター機能を充実させたい。
 - ・活気のある教室とそうでない教室が直接交流しえないか。
 - ・子育て中の保護者が安心して学べる環境の教室が少ない。学習者だけでなく支援者も出産・子育てで参加できない人もいる。どうすれば保育体制が整備できるかは市町村の枠を超えて取り組みが必要。
 - ・外国人保護者が母国の常識を元に子育てするので、行政的な情報提供が必要だ。
 - ・子育て中で日本語を学びたい人の把握ができていない。
 - ・妊娠をきっかけに来なくなる学習者もいる。日本人以上に外国人の母親は孤立しているのではないか。
 - ・教室として何ができるのか。子育てボランティアなどと協力していけるか。
 - ・お弁当作りや料理など、外国人が楽しく交流できる場も必要ではないか。
- ③・「識字・日本語学習セミナー」の実施について
企画案の説明後、グループで意見交換(主な意見)
 - ・先に学習者がスマホをどう扱っているかを聞いたうえで、講演をしてもらったらどうか。
 - ・外国人学習者へのインタビューの際、コーディネーターの人がサポートしたほうがいいのではないか。
 - ・支援者の人にスマホ活用の方法を知ってもらうことが必要。
 - ・外国人家庭では、家族の間でもスマホで会話していたりする。(親子で使用言語が異なる)
 - ・学習者のニーズは多様であり、支援者はいろんな学習者に対応していかないといけない。
 - ・シンポジウムは、12月3日(水)に開催。内容は今後さらに検討する。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

本取組では、府内各地において運営基盤が脆弱な教室が連携し、市町村行政とも協働して取り組んでいける体制づくりを進めていくことを目標に、大阪府内各地域の偏りがないように配慮したうえで依頼した識字・日本語教室の運営者が集い、地域における学習活動の状況と課題を共有し、各地域における協働体制の構築を進めていけるよう協議する場の設定を行った。府内各地域の教室担当者と行政担当者が地域における学習活動の状況と課題を共有し情報交換をすることができたことで、体制整備につながる一歩となったと考える。普段情報が得られない他地域の状況を知り、参考にする点や協力できる点を協議することができ、課題解決に向けた各地域における協働体制について具体的な提案も出された。学習者は行政区域を超えて教室を行き来するため、市区町村も横の連携や情報共有が必要であるという課題の共有が図られたことで体制整備に資する取組であったと言える。

(10) 改善点について

各地域の状況と課題について関係者間で協議できたのはよかったが、地域によって日本語教育の状況について違いが大きいため、この結果を今後にどのように活かしていくのかについては課題が残った。

○取組3:識字・日本語学習支援シンポジウムの開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域の識字・日本語教室が、多様な人々が共生するために果たしてきた役割を問い直し、現状や関係者のニーズに対応できる新たな仕組みづくりを進めていく。

(2) 取組内容

識字・日本語教室、各団体、行政等の協働による取組みについての発表を行い、その事例をもとに、継続的に協働できる仕組みづくりについて協議・検討した。

(3) 対象者

識字・日本語教室関係者、行政担当者等

(4) 参加者の総数 54人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	54人	(参加者の国籍を問うておらず不明)

(5) 開催時間数(回数) 2時間20分 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 12月3日 13:30～ 15:50	2時 間20 分	あべのハルカ ス25階 会議室 F	54人	(4)のとおり	民間と行政 の継続的 な協働の 仕組みづく り	識字・日本語教室、各団体、行政等の 協働による取組みについての発表を 行い、その事例をもとに、継続的に協 働できる仕組みづくりについて協議・ 検討した。	有田典代 安野勝美 有田典代 鵜飼聖子 田中洋子 田中隆博	

(7) 参加者の募集方法

チラシを作成し、府内市町村や識字・日本語教室へ配布。また、おおさか識字・日本語センターのホームページでも告知

(8) 特徴的な活動風景

大阪府教育委員会から、昨年度実施した識字・日本語学習に関する調査の概要説明後、「多文化共生社会をめざして、日本語教室が果たす役割と行政の支援を考える」と題して有田典代さん(関西国際交流団体協議会)、鵜飼聖子さん(こどもひろば)、田中洋子さん(にほんご なんば)、安野勝美さん(大阪にほんごボランティアネットワーク)、田中隆博さん(大阪府教育委員会)で講演とオープンディスカッションを行い、後半、参加者でグループ討議を行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

識字・日本語教室、各団体、行政等の協働による取組みについての発表を行い、その事例をもとに、継続的に協働できる仕組みづくりについて協議・検討することができた。シンポジウムの内容を整理し記録したものを、参加教室・団体、行政担当者に送り、今後の取り組みに活かせるよう府内の行政と民間によって組織されている「大阪識字・日本語協議会」へ報告した。

(10) 改善点について

行政担当者にもっと参加していただきたかった。参加を促すための工夫を検討していきたい。正式な報告書という形をつくれなかった。今後も民間と行政が協働できる仕組みをつくれるよう進めていきたい。

○取組4: 識字・日本語学習支援セミナーの開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

識字・日本語教室の学習支援者を対象に、活動の悩みや課題を共有し、学習者のニーズに即した学習支援を行うための視点やスキルを学ぶ。

(2) 取組内容

地域の識字・日本語教室の運営支援の一環として、学習支援者や教室運営者を対象にセミナーを開催。教室で、学習者がわからない日本語や漢字などをスマートフォンやタブレットなどで検索することが多いが、支援者の方ではスマートフォンの使い方がわからないなどの相談があったことから、学習者が実際にどんなスマートフォンやタブレットの使い方をしているのか、またどんな使い方ができるのかを実演も交えて学習した。その上で、情報を便利なツールを使って入手できる学習者が教室に何を求めているのか、必要な支援の在り方を考える場にする。

(3) 対象者

識字・日本語教室の学習支援者

(4) 参加者の総数 40人

出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	1人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	38人

(5) 開催時間数(回数) 3時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 10月4日 13:30～ 16:30	3 時間	大阪府立 中之島図書館 別館2階講義 室	40人	(4)の内訳の とおり	(2)のとおり	実際にどんな場面でスマートフォンやタブレットを使っているか学習者に発表してもらう。 スマートフォンやタブレットで入手できる情報、日本語学習に役立つ使い方を学び、必要な支援の在り方を考える。	ヴァークアン ヒエン 謝 麗 郷 岩田 修二 西村 友里 田中 洋子 安野 勝美	

(7) 参加者の募集方法

チラシを作成し、府内市町村や識字・日本語教室等へ配布。おおさか識字・日本語センターのホームページで告知。

(8) 特徴的な活動風景

第1部

外国人学習者が普段のスマートフォン・タブレット活用状況を発表。

日本語学習に使用している事例、ウェブ教材の紹介

・スマホやタブレットでどんなことをしてるか

わからない言葉を辞書の代わりに調べたり、交通手段を調べたりなどの調べものに活用。

アプリを使って、日本語検定の練習もできる。

第2部

スマートフォンでどんなことができるのか、実演も交えて講演

教室の支援の在り方についてグループ討議

●アンケートより(抜粋)

・実際に活用されている方の話は、とても知識になりました。(テキストのダウンロードなど)

・他教室で実際にタブレット用教材を作成されておられる話が聞けてよかった。

・学習者 参加型 興味深いです。

・同じ母国で滞在歴の長い人、短い人というのはどうでしょう。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

この取組では、識字・日本語教室の学習支援者を対象に、活動の悩みや課題を共有し、学習者のニーズに即した学習支援を行うための視点やスキルを学ぶことを目標として、セミナーを開催した。

地域の教室の学習支援者の多くは日本語教育の専門家ではないので、教材や毎回の学習内容について現状のままで良いか、学習者の必要としている学習内容になっているか悩んでいるという声が多い。また、テキストを順に読み合ったり問題を解いたりするだけで十分なのか、学習者の率直な声を聞きたいと感じている。

このセミナーで、外国人学習者の状況について支援者が学習者本人から話が聞けたのは、支援者にとってよかったと感じている。普段、学習者がどのようにスマートフォンやタブレットを活用して情報入手しているか、日本語学習のためにどのように使っているか聞くことができ、学習者から支援者が学ぶ機会となった。

具体的にタイ語での情報入手や日本語学習ができるサイトを知ることもできた。それぞれの教室でタイ人学習者がいれば有益な情報を伝えることができるので参加して良かったとの感想もあり、他の言語でも同様に、学習者が利用しているサイトを同じ国の他の学習者に伝えてはどうかという意見がでた。

また、そうしたツールを使い、webサイト等で様々な情報を得ることができる学習者が教室に何を求めているのか、必要な支援の在り方を考える場になった。

年配の支援者にとって、スマートフォンやタブレットなどはなじみが薄いのが、逆に学習者から教えてもらうことによって、学習者の自信にもつながるなど、学習者側にとっても新鮮な体験となったようだ。

(10) 改善点について

チラシの配布などの広報に工夫が必要。

内容についても、参加者の理解度に差があるのでどこに焦点を合わせるか今後の課題。

○取組5:よみかきこうりゅうかい

(1) 体制整備に向けた取組の目標

府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者がお互いに情報交換や意見交流を行うことにより、日常の活動への意欲や課題を解決していくヒントを得る機会とする。

(2) 取組内容

大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会し、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を行う。

(3) 対象者

府内の識字・日本語教室等の学習者、学習支援者、市町村担当者

(4) 参加者の総数 389人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	不明
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	人	

(5) 開催時間数(回数) 3時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 11月2日 10:30～ 15:00	4.5 時間	大阪府教育センター	389人	(4)のとおり	府内の学習者・支援者の交流で活動を充実させる機会	大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会し、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を行う。	金 侖貞 大滝 沙織 朴 錦花 アジルバス シャビン	吉村 和子 細溝 美和子

(7) 参加者の募集方法

チラシを作成し、府内市町村や識字・日本語教室へ配布。また、大阪府教育委員会・おおさか識字・日本語センターのホームページで告知

(8) 特徴的な活動風景

午前の全体会では参加教室の紹介、活動発表(夜間中学、いずみ識字学級、にほんごなんば)、韓国の全国文解・基礎教育協議会から来日した方々の講演、午後の分科会では9つの分科会に分かれてそれぞれ活動の成果発表や情報交換を行い、交流を深めた。

●アンケートより抜粋

- ・たくさんの私と同じ勉強者がいることがわかって、すごく励みになります。多く先生と支援者は、私たちために努力しています。本当に感謝します。これからもよろしくお願いします。
- ・夜中、日本語、しきじそれぞれカラーが出ていて楽しい発表だった。準備ご苦労様でした。
- ・分科会には人々の体験を聞いてすごく勉強になりました。
- ・他国の人のことも聞けてよかったです。発言もかっばつです。





(9) 取組の目標の達成状況・成果

大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会し、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を行うことができた。日韓の識字・基礎教育の歴史や現状を知り、情報交換ができたことは有意義であった。今後も交流できるよう連携体制をつくることができた。中国語・韓国語の母語で話し合える分科会では、活発な発言があり、日本で暮らす外国人の現状や意見を交換できた。

(10) 改善点について

会場の都合で開催日が限られていたこともあり、参加できない教室があった。今後、早めに広報するなどしていきたい。

○取組6:学習支援者体験研修

(1) 体制整備に向けた取組の目標

各市町村の担当者が実際の活動場所を訪れ、その現状を深く理解することで、基礎自治体としての学習活動支援を充実させていく。

(2) 取組内容

大阪府内43市町村の担当者が、識字・日本語教室における学習支援活動を体験する。識字・日本語教室(にほんごなんば)の学習者30名に学習者役として出席してもらい、学習者1人対行政担当者2名がグループとなり、日常の教材を使い学習支援活動体験を行った。体験前に教室活動の現状や学習支援の基本姿勢などを学び、体験後に学習支援活動をふりかえり、行政としての支援のあり方について協議した。

(3) 対象者

府内市町村識字・日本語学習担当者

(4) 参加者の総数 54 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	54人	

(5) 開催時間数(回数) 3時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 4月22日 13:30～ 15:00	1.5 時間	大阪市立難波 市民学習セン ター	54人	(4)のとおり	各市町村 の担当者 が学習支 援の体験を きっかけと し、実際の 活動場所を 訪れ、現状 を深く理解 し、基礎自 治体として の学習活 動支援を充 実させる	大阪府内43市町村の担当者が、識 字・日本語教室における学習支援活 動を体験する。 学習者1人対行政担当者2名がグルー プとなり、日常の教材を使い学習支援 活動体験をする。 体験前に教室活動の現状や学習支援 の基本姿勢などを学び、体験後に学 習支援活動をふりかえり、行政として の支援のあり方について協議した。	安野 勝美 久保 房子 田中 洋子 塩山 詠子 田村 幸子 アブドゥル ラーマン	

(7) 参加者の募集方法

にほんごなんばに協力を依頼し、学習者に参加してもらう。市町村担当者に大阪府教育委員会から出席依頼。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

大阪府教育委員会主催の市町村識字・日本語学習担当者連絡会議と連携して開催。
大阪府教育委員会から大阪府内の日本語学習の状況を説明、体験する前に日本語学習支援について
講義を受けた後、市町村担当者が日本語学習支援を体験した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本語学習の現場を見たことがない、または自分の担当市町村の教室しか見たことがない行政担当者
に、日本語学習や日本語教室を体験してもらうことができ、好評だった。今後も大阪府教育委員会と協力
して教室見学会を開催するなどして、市町村担当者に現状を知ってもらう機会を提供していきたい。

(10) 改善点について

参加していただけない市町村がある。今後、その市町村にどう働きかけをしていくか大阪府教育委員会と
も協議していきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

大阪府内で活動する約205の教室の活動を日常的に支援していくための体制づくりを進める。

(2) 事業目的の達成状況

大阪府内で活動する約205の教室の活動を日常的に支援していくための体制づくりを進めるとして6つの取組みを行った。

大阪府内でも、各地により事情はさまざまである中で、情報交換や交流をすすめ、これから大阪府内の識字・日本語学習をどう進めていくか協議することができた。

セミナー、シンポジウム、こうりゅうかいではアンケートを取り、感想や意見を集約し、参加教室・運営協力者・団体と共有し、今後の取り組みに反映させていけるようにした。

セミナーでは、通常の活動における支援者が学習者に教える立場を変えて、学習者から学ぶ視点を持ち、教室の役割を再認識する機会をつくることができた。

シンポジウムでは、民間と行政が協働して課題解決に向けて取り組んでいる具体的事例を知り、それぞれの役割を明確にし、さらに何ができるかを考える機会となった。特に外国にルーツを持つ子どもの増加にともない、地域と学校、支援のノウハウを持つ団体、地域の教室、行政が連携して取り組まなければならない課題があり、今年度だけでなく、今後も引き続き取り組みを広げていきたい。正式な報告書としてまとめることはできなかったが、シンポジウムの内容を整理し、発信することはできた。大阪府、大阪市、堺市の教育委員会と民間団体からなる「大阪識字・日本語協議会」において報告し、府内全体で取り組めるように提案した。

こうりゅうかいでは、「識字」「日本語」の学習者・支援者、夜間中学校の生徒・教師が一堂に会する機会をつくり、交流を深め、それぞれの活動の充実に役立てることができた。特に、学習者が普段の環境以外の場で学習成果や自分たちの思いを発表することで、自信をもつことができたり、同じ仲間が存在で勇気づけられたり、学ぶ意義を再確認することができた。また、韓国の全国文解基礎教育協議会から会長他2名の方が来られ、文字の読み書きを学ぶ人々の国を超えて共通する思いを聞き、それを支える体制について話を聞くことができた。今後も工夫をしながら民間レベルの日韓交流を発展させていくことで意見が一致し、取り組みを進めていくこととなった。

各取組において、大阪府教育委員会、府内市町村行政担当者、NPO団体等、本事業以外の識字・日本語学習支援団体・教室や連絡会等にも協力していただき、連携を強めることができた。

子育て世代の学習者から直接声を聞き、教室として、具体的に地域の福祉協議会とどう連携できるかを話し合う機会をつくることができ、課題解決に向けて動き出す体制をつくることができた。これまでは、地域で外国籍住民の存在を把握していても、日本語を学ぶ場があることを知らなかったが、今回知ることができたので、教室につなげていき、必要な情報を提供していく体制づくりに向けて前進させることができた。

(3) 地域における事業の効果、成果

各教室が個々に活動に取り組んでいるだけでは充実した取り組みを継続することは困難である。大阪府内でも、各地によりさまざまな違いがある中で、教室運営の中心的役割のキーパーソンが会議で直接話し合い、各取組の内容を協議・検証することにより、それぞれの取組みに新たな視点を加えることができた。また、各地の情報を共有することで、よい事例・悪い事例を各地の日本語学習に持ち帰り、改善することができた。参加者は今後も定期的に府内教室運営者が集まる機会を継続して持っていきたいとの思いを強く持った。

連携する必要性は感じていても、その体制をつくることは教室運営者だけでは難しい。今事業で行政と一緒に継続して連携できる仕組みをつくるために協議と交流の場を創出できたので、継続させていきたい。

よみかきこうりゅうかいでは、支援者や教師等、学習の場を運営する側だけの協議や交流ではなく、学習者・学習支援者・行政担当者・研究者など多様な立場の人々が一堂に会する場とした。教室同士の交流の機会が少ない現状で、この交流会では学習成果を発表したり、幅広い交流ができた。分科会ではそれぞれ約10人～20人程度で、より具体的な交流ができた。また、企画する段階で韓国の全国文解・基礎教育協議会に来ていただくことが可能となり、日韓で交流できる貴重な場となった。韓国における識字学習の現状と取り組みの歴史を具体的に聞き、日本との違いと共通する点を明確にできた。韓国の非識字者の数は日本より多く、識字学習を保障する国の法律があるので公的支援は当然充実しているが、一般市民の認識は充分ではないということで、社会への働きかけに努力されていることも知った。また、学習者が学ぶ喜びを得て、自分にできる社会貢献活動を展開している点は聞く人に感銘を与え、参加者が触発された。顔の見える関係づくりができ、連絡方法なども検討できたので、継続して日韓交流がきるようになった。

交流会の意義を感じ、運営に協力する人たちの体制は形成できた。

セミナー、シンポジウムはこれまでも開催されてきたが、本事業では、実際に支援者が感じている課題を取り上げた内容にそった企画ができた。行政が実施する今後のセミナーやシンポジウムも、内容や講師について、教室からの声を反映させる仕組みをつくることができた。

教室を所管している市町村担当者が実際の教室活動を体験できたことで、その後各市町村で開催されている教室を訪問したり、これまで情報を得ていなかった教室の状況を把握できた市町村があった。学習者や支援者の募集状況を把握し、おおさか識字・日本語センターに集約して情報提供する仕組みが新たにできた。

(4) 改善点, 今後の課題について

i 現状

大阪府内の各地の日本語学習事情が違うなかで、本事業を通じて情報共有や交流が生まれ、各団体と協議できた。

ii 今後の課題

今回の事業で生まれた協力連携体制をどう継続させていくかが今後の課題。

特に、学習者・学習支援者・行政担当者・研究者など多様な立場の人々が一堂に会する交流会は、さらに参加者を増やしていきたいが、一堂に会することができる便利な場所や会場がなく、開催時期や会場の設定が難しい。大阪では便利な場所では会場費が高いため、運営予算の確保が課題である。

学習支援体験研修を継続するためには、学習者の数が30名以上の教室の協力が必要だが、研修の意義を理解し、協力してくれる教室があるかが実施の鍵である。通常、行政担当者は短い年数で新しい人に替わるので、継続して取り組みの成果を積み上げる経験豊富な人や実績のある機関が、行政の取り組みの中で位置づけられなくてはならない。

本事業ではコーディネーターを一定位置づけて会議を開催したが、コーディネートする人の資質を向上させ、育成することが重要だ。

iii 今後の活動予定

コーディネーター連絡会議等は開催回数は減っても継続させていく予定。セミナー、シンポジウムは内容も含め開催そのものをコーディネーター連絡会議等で検討していきたい。

(5) その他参考資料